

# 1 自己評価及び外部評価結果

## 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3590700062		
法人名	株式会社 ホームケアサービス山口		
事業所名	グループホーム のんびり村 米川		
所在地	山口県下松市下谷字砂の本179		
自己評価作成日	平成29年9月25日	評価結果市町受理日	平成30年3月23日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度ホームページで閲覧してください。

## 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 やまぐち介護サービス評価調査ネットワーク		
所在地	山口県山口市吉敷下東3丁目1番1号 山口県総合保健会館内		
訪問調査日	平成29年10月26日		

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

緑豊かな自然の中で、ダイバーショナルセラピーの視点から「老いることは楽しむこと」「朝起きる目的をつくる」の理論の基に支援をさせて頂いています。また、米川ならでの地域との温かい交流や、個人個人の楽しみや生きがいを見出せる生活を提供できることを目標としております。

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

職員は自治会の一員として地域の清掃作業への参加やどんど焼き、運動会の準備に協力され、利用者は小学校の入学式、卒業式、参観日に出かけられて児童や地域の人と交流されています。小学校や郵便局には「のんびり村米川コーナー」が設けてあり、利用者の作品展示や事業所便りの掲示がされています。神社の祭りでは神輿が事業所に立ち寄っています。事業所の秋祭りには地域の人の出店や小学生によるよさこい踊りでの参加があるなど、地域と一体となって開催されています。小学生の体験学習の受け入れやボランティアの来訪がある他、社会福祉協議会の協力や近所の人々の来訪、花や野菜の差し入れがあるなど、事業所は地域とつながりながら日常的に交流されています。利用者の思いや意向の把握をするために、ダイバーショナルセラピーの考え方に基いた「好きなことアセスメントシート」を活用しておられ、日々のケアの中で利用者の言葉や表情、対応の記録を誰にもわかりやすく改善されて介護計画に活かされ、一人ひとりの思いや希望に添った個別支援につなげておられます。事故防止に向けて、記録様式の改善を図られています。職員は、年1回は外部研修を受講され、受講後は伝達や資料の閲覧によって全員が共有され、2カ月に1回、内部研修で学ばれる他、法人研修では、スリープマネジメント、ダイバーショナルセラピーなどの研修に取り組みられています。接遇や、介護技術、自己啓発に関する自らの課題を目標として達成できるように管理者による個人面接を実施しておられるなど、職員が働きながら学べるように支援しておられます。

## V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～56で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
57	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:24. 25. 26)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	64	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:10. 11. 20)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
58	利用者や職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:19. 39)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	65	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2. 21)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
59	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:39)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:5)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
60	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:38. 39)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員は、生き活きと働けている (参考項目:12. 13)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:50)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:31. 32)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
63	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:29)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

## 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「地域と共に楽しい生活」という理念をつくり管理者と職員で話し合い、日々地域でその人らしく暮らせるサービスに取り組んでいる。	地域密着型サービスの意義をふまえた事業所独自の理念をつくり事業所内に掲示している。月1回の会議時や日常業務の中で理念を振り返り、利用者一人ひとりがその人らしく暮らせているかを話し合い、共有して実践につなげている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会に加入し、盆踊りや地域の祭り等にも参加。又、日々の散歩にて地域の方と交流している。	自治会に加入し、管理者は総会に出席している他、地域づくり協議会のメンバーになっている。小学校の広報や自治会の回覧を通して地域の行事を把握している。職員は3ヶ月に1回ある地域の清掃作業や運動会、どんど焼きなど、地域行事の準備に協力している。利用者は、サマージャンボリーや地藏尊祭り、花祭り、どんど焼きに職員と一緒に参加し、地域ぐるみの小学校運動会や敬老会には席が設けてあり参加している。小学校や郵便局には常設のコーナー「のんびり村米川」があり、事業所便りや作品を展示している。神社の祭りでは事業所に神輿の立ち寄りがある。事業所主催の秋祭りは地域から屋台の出店や小学生によるよさこい踊りがあり、家族と一緒に地域の参加者と交流している。小学校の入学式、卒業式、参観日などの行事に毎回参加し、児童と交流している。ボランティア(お話、散歩、楽器演奏、大正琴、紙芝居、合唱等)の来訪がある他、社会福祉協議会の協力を得て外出支援がある。利用者は、散歩時に地域の人と挨拶を交わしたり、回覧版を回したり、グラウンドゴルフクラブへの参加、花や野菜の差し入れがあるなど、日常的に交流している。小学生の総合学習を受け入れている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	日頃から地域の方の相談にも気軽にのることができる環境になっており、他にも米川地区協議体に参加し意見をのべる機会を得ている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
4	(3)	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。	前回、運営推進会議の参加率が多いと高評価だったが、ご家族の参加が実践できていなかった。現在、交代でご家族にも声をかけて参加して頂いている。	管理者は、朝夕の申し送り時を利用して、評価の意義を説明した後、自己評価をするための用紙を職員に配布し、記録してもらい、まとめている。自己評価をケアの振り返りと捉え、利用者との関わりを見つめ直す機会となっている。前回の外部評価結果を受けて、目標達成計画を立て、思いを把握するための記録の改善や運営推進会議に家族の参加を得るための工夫、事故防止のために記録様式を再度検討しているなど、具体的な改善に取り組んでいる。	
5	(4)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に1度の会議では毎回多数の委員さんたちに参加して頂き、意見交換の場になり、アドバイスや情報も参考にしている。	新たに家族の参加を得て、会議は年6回、併設の小規模多機能型居宅介護事業所と合同で開催している。利用者の状況や活動状況、行事予定、職員の研修報告、外部評価結果報告をして、話し合いをしている。クリスマス会と同日に実施して利用者や参加者同士の交流ができるように工夫している。参加者からは事業所の仕組みや利用方法について説明を求める意見があり、次回から理解が得られるように取り組むこととしている。会議を活かすためには、議事録の記録内容が十分とは言えない。	・議事録の工夫
6	(5)	○市町との連携 市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	米川地区協議体や運営推進会議で運営や現場の実情等を積極的に伝えたり、わからないことは電話をしたり、直接市役所に出向いたりして、相談している。	市担当者とは運営推進会議時の他、電話や直接出向いて情報交換を行い、運営上の疑義や法的解釈について相談し、助言を得るなど、協力関係を築くよう取り組んでいる。地域包括支援センター職員とは運営推進会議時に情報交換を行い、連携を図っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7	(6)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	原則、身体拘束をしないことは、ご家族、全職員が理解しており、安全委員会でも議題としている。利用者には自由な生活を送って頂くよう玄関の施錠もしていない。	「高齢者虐待防止・身体拘束マニュアル」を基に、内部研修で学んでいる他、2カ月に1回開催している安全委員会に出席した職員からの情報で、職員は身体拘束の内容や弊害について正しく理解している。玄関には施錠をしないで、外出したい利用者とは、職員と一緒に散歩に出かけるなどして、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。スピーチロックについては、気づいた時には管理者が指導し、職員間でも注意し合っている。	
8		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	新たに作った虐待のマニュアルを基に定期的に研修を社内外でしており、職員にもストレスのたまらないような環境づくりを心掛けている。		
9		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	自立支援として出来ることは声掛け見守りで、自室の掃除をしてもらっている。		
10		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	その都度理解や納得が得られるまで説明している。		
11	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等からの相談、苦情の受付体制や処理手続きを定め周知するとともに、意見や要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者やご家族からの苦情や相談を受けた時はすぐに苦情報告書にあげ、すぐに現場で話し合い早急に対応し、今後の運営に反映させている。	苦情相談窓口及び担当者を明示し、処理手続きを定めて、契約時に家族に説明をしている。家族からは面会時や運営推進会議参加時、行事参加時、介護計画見直し時、電話等で意見や要望を聞いている。毎月、利用者の暮らしの状況を記録した事業所便りを送付して日常の様子を伝え、家族が意見が言いやすいように工夫している。意見や相談は苦情報告書や連絡ノートに記録して職員間で共有している。利用者の日用品不足の催促について家族に負担感を感じさせない方法を検討しているなど、意見を反映させている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
12	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	各職員の意見をまとめてもらい、月1の会議で皆でそのことについて話し合いを行い、運営に反映させている。意見や相談がある場合は、その都度時間をつくり聞いている。	管理者は、月1回の会議時や朝夕の申し送り時、年2回の個人面接時に直接職員の意見や提案を聞く機会を設けている他、日常業務の中でいつでも意見が言えるように配慮している。職員の気づきや提案は、会議での検討や間を置くなどして、反映に結び付けている。利用者の自立とケア方法について話し合いを始めるなど、意見を運営に反映させている。	
13		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	個人面談は年2回行っており、職員の環境や人材の適材適所に向けた努力をしている。賞与は査定制。		
14	(9)	○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	個人面談時に管理者と各職員で話し合いアクションプランを決め実践に向け努力している。個人研修も社内外で積極的に取り組んでいる。	外部研修は、職員に情報を伝え、希望や段階に応じて勤務の一環として受講の機会を提供している。職員は年1回は受講する機会(アセスメント力を磨く、感染予防と緊急時の介護等)を得ている。受講後は「研修報告書」に記録し、月1回の会議で伝達して、資料は閲覧して全員が共有している。法人研修は、理念にある「その人らしく」の実践に向けて認定講師の資格を持つ管理者が講師を務めて「ダイバーショナルセラピー」「スリープマネジメント」の研修に取り組んでいる他、福祉用具や薬剤師による薬の話等、適宜、勉強会を実施している。内部研修は年6回、外部講師や管理者を指導者として実施(接遇、介護技術、認知症、高齢者虐待防止、身体拘束等)している。新人職員は日々の業務を通して先輩職員から指導を受けて、働きながら学べるように支援している。職員は接遇や介護技術、自己啓発等に関する自らの課題を目標とし、達成できるように管理者が個人面接を通して確認しているなど、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
15		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	自社内での他事業所との交流はイベントや研修、会議等を通じて行っている。社外はグループホーム協議会を通じて交流している。		
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
16		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用者と最初に直接話し、要望に少しでも近づくよう個別に支援している。		
17		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	利用前に施設をよく見て頂き、その際困りごとや要望を伺っている。		
18		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人やご家族と相談しながら、今必要な支援の対応をしている。		
19		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	掃除や洗濯干し、洗濯たみ等職員と協力し合えるよう共同で行っている。		
20		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時にご家族と話す時間をつくり、連携が取れるよう努めている。可能であれば買い物や食事介助等ご家族に協力して頂いている。		
21	(10)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	地域の行事に参加したり、昔なじみの方とのゲートボールを企画し支援したり、ご家族の協力を得て外出している。	家族の面会や親戚の人、近所の方の来訪がある他、手紙や電話での交流を支援している。自宅周辺へのドライブや祭りに出かけ、グラウンドゴルフ仲間を尋ねたり、馴染みの商店での買物、家族の協力を得て法事や結婚式への出席、墓参、外出、外食等、馴染みの人や場所との関係が途切れないように支援している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	皆でひとつの作品を手がけたり、利用者同士の様子を見て関係を考慮し時折席替えを行っている。		
23		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約が終了しても病院へお見舞いに行ったり、これまでの関係性をずっと大切にしており、ご家族の相談や支援に努めるようにしている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
24	(11)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の余暇を楽しめたり、又自分の意思を伝えるには日頃の様子を職員に聞き取りを行っている。	基本情報やダイバーショナルセラピーの考え方に基づいた「好きなことアセスメントシート」を活用している他、日々の関わりの中で利用者の発した言葉や表情、行動などを経過記録に記録して思いや意向の把握に努めている。利用者の思いの把握についての記録方法を誰にもわかりやすく改善し、介護計画や個別支援に活かすことができている。困難な場合は職員間で話し合い、本人本位に検討している。	
25		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族及び本人の好きなことアセスメントシートを利用して把握に努めている。		
26		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	本人の日頃からの様子観察、医療との連携を図っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
27	(12)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	精神・身体的に難しい場合もあるができる限り色々な人にモニタリングしている。	管理者や計画作成担当者、利用者を担当している職員を中心に月1回、カンファレンスを開催し、利用者の思いや家族の意向、医師や訪問看護師の意見を参考にして話し合い、職員全員で介護計画を作成している。3ヶ月毎にモニタリングを行い、6か月毎見直しをしている。利用者の状態や家族の要望に変化があればその都度見直し、現状に即した介護計画を作成している。	
28		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の申し送りや本人との会話、様々な記録に目を通し職員間で情報を共有しながら介護計画を作成している。		
29		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	遠方におられるご家族との外出や本人希望の買い物支援や理美容のサービスを活用してもらっている。		
30		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	郵便局の展示コーナー、小学校事業参加、地域参加による秋祭り、地域花火大会へも参加している。		
31	(13)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご家族や本人希望を大切にし、主治医や薬剤師との連携の基、受診介助等支援している。	本人や家族が希望するかかりつけ医とし、協力医療機関からは月2回の訪問診療がある。歯科は週1回、往診がある。他科受診については必要に応じて事業所が支援している。受診時にはメモで情報提供し、受診結果は電話や面会時に家族に報告している。職員は経過記録や医療ノート、薬ファイルに記録して共有している。月2回、訪問看護師の来訪があり、利用者の健康管理や職員からの相談を受けている。夜間や緊急時は管理者に連絡し、協力医療機関と連携して適切な医療が受けられるように支援している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	受診時職員が付き添い、日頃の様子や体調の変化の情報を記録を基に伝えている。		
33		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	日頃から病院関係者との情報交換や相談に努めているが、入退院時には時間をつくり病院に出向き、情報交換や相談といったことに努めている。		
34	(14)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	現時点で出来ることをご家族に説明し話し合い理解を得ている。	指針に基づき、重度化や終末期に事業所のできる対応について、契約時に家族に説明している。実際に重度化した場合は、早い段階から本人や家族の意向を聞き、主治医、訪問看護師と話し合い、医療機関への移設も含めて今後の方針を決めて職員は情報を共有し、チームで支援に取り組んでいる。	
35	(15)	○事故防止の取り組みや事故発生時の備え 転倒、誤薬、行方不明等を防ぐため、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組むとともに、急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身につけている。	年4回の安全委員会で事例を報告・検討し現場での事故防止に努めている。新たにヒヤリ・事故等の報告があがり、対応を皆で検討し実践してみた、その後の経過を評価する習慣をつけるようにした。	事例が生じた場合は、「事故・軽微・ヒヤリハット報告書」に発生状況や対応、原因、今後の対応について記録して管理者に報告し、職員には朝夕の申し送り時に報告し、回覧して共有している。安全委員会での事例報告や他施設からのアドバイスを参考にして、月1回の会議時に再度、防止策や対応について話し合い、一人ひとりの事故防止に努めている。2週間以内の経過や評価等を記録する欄を設けて再発防止に向けた記録様式の改善を図っている。感染予防や事故防止、救急法等マニュアルに基づいて研修を実施しているが、全職員が実践力を身につけるまでには至っていない。	・全職員による初期対応や応急手当の定期的訓練の継続

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
36	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	土砂災害避難訓練、消防避難訓練を定期的に行い指導を受けている。前回の注意点を重点的に実践し学んでいる。	年2回、消防署の協力を得て昼夜間を想定した通報、消火、誘導、避難訓練を実施している他、土砂災害については県の協力で避難訓練及び研修を実施している。災害時には地域の避難場所として協力することになっている。地域住民が参加して訓練が実施できるよう、運営推進会議や行事を通して参加を呼びかけている他、連絡網に消防団員や消防署OBの連絡先の記載はあるが、地域との協力体制を築いているとは言えない。非常用食品として水や缶詰、レトルト食品、インスタント食品、コンロ、ガスボンベなどを備蓄している。	・地域との協力体制の構築
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
37	(17)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	ひとりひとりに敬意をもって声掛けするよう管理者や職員間でお互いに気を付けるよう努め、おかしい場合には注意している。	職員はマニュアルや接遇の研修で学んで理解しており、利用者を人生の先輩として接し、尊厳を傷つけない言葉かけや対応をして、利用者一人ひとりの誇りや人格を損ねない対応をしている。職員の気になる言動については管理者が注意している。個人情報取り扱いについて理解している他、守秘義務は遵守している。	
38		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	職員に思いや希望を伝えやすいよう話をする機会を作り、管理者や職員間で相談をしながら実現できるようにしている。		
39		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	自由に居室に戻り過ごされている。		
40		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	夏には浴衣を着て頂いたり、男性利用者には髭剃りの声掛けをしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	昼食時には職員も一緒にテーブルで食べている。	食事は三食とも同施設にある法人の厨房で調理しているが、年2回は利用者と職員と一緒に事業所で調理している。法人の管理栄養士の献立を参考にして、利用者の希望を取り入れた献立にし、食べやすいように刻みや粥、とろみなど、形態の工夫や好みによる食品交換をしている。利用者は材料の下ごしらえや切る、混ぜる、炒める、盛り付け、テーブル拭き、食器洗いなどできることを職員と一緒にしている。職員は弁当を持参し、利用者と職員は同じテーブルを囲んで会話を弾ませて食事をしている。おやつづくり(ホットケーキ、どら焼き、チョコ入りたこ焼き、ムース)、戸外食(園庭にテーブルを出して喫茶、弁当持参での花見)、季節行事食(おせち料理、節句の寿司、恵方巻、敬老会、クリスマス、忘年会)、カフェの利用、家族を招いての秋祭りの食事や誕生日の夕食、家族との夕食等、食事が楽しみなものになるように支援している。	
42		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分摂取表や食事量記入表を用いて一目で把握できるようにして支援する習慣になっている。		
43		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	自分で出来ない方は介助し、自立の方にも毎食後声掛けし促している。		
44	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄の一覧表を用い、排泄のリズムを掴みトイレ誘導している。	排泄一覧表を活用して、利用者一人ひとりの排泄パターンを把握し、言葉かけやトイレ誘導を行い、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
45		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便の量や形状を毎日記録し水分摂取や体操での排便の働きかけを行っている。		
46	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている	入浴を楽しんで頂けるよう本人の意思や体調によってシャワー浴にしたり調整している。	入浴は14時から15時30分まで可能で日曜を除き、毎日入浴できる。入浴時間や順番、湯加減、季節の柚子湯、菖蒲湯等、利用者一人ひとりの希望に応じてゆったりと入浴できるように支援している。入浴したくない人には無理強いしないで、入浴日や時間の変更、職員の交代、言葉かけの工夫をして対応している。利用者の状態に合わせて、清拭やシャワー浴、足浴、部分浴、シャワーチェアの利用、個々に応じた入浴の支援をしている。	
47		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	不安があつて眠れない方にはホールで職員と過ごしたり、話をして安心して頂けるようにしている。		
48		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬情をファイルしたものを活用し配薬も職員2名で錠数の確認、ダブルチェックを毎日行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(21)	○活躍できる場面づくり、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	アセスメントシートや会話で拾った内容等を基に、個別レクを企画し、行きたいところやしてみたい事、楽しいことを実践、支援している。	テレビやDVDの視聴、新聞や雑誌を読む、編物、習字、ビニール紐手芸、絵、ぬり絵、折り紙、紙細工で壁画づくり、脳トレ、ゲーム、しりとり、トランプ、かるた、百人一首、将棋、紙芝居、歌を歌う、カラオケ、風船バレー、ラジオ体操、健康体操、運動機器を使った運動、干し柿づくり、洗濯物たたみ、洗濯物を居室に持ち帰り収納、掃除(掃除機をかける、モップかけ、箒で外庭を掃く)、花を生ける、花鉢の水やり、花の手入れ、草取り、食事の下ごしらえ、切る、混ぜる、盛り付け、食器洗い、テーブル拭き、居室のカーテンの開閉、シーツ、枕カバーの交換、入浴の準備、移動図書館、移動販売の利用、地域の祭りに参加、季節の行事に参加(敬老会、小学校の行事、クリスマス)、誕生日の外出、外食等、活躍できる場面づくりや楽しみごと、気分転換の支援をしている。	
50	(22)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	散歩したり本人の希望にてドライブに出かけたりしている。	散歩、外気浴、近くの公民館に来る移動販売や移動図書館の利用、地域行事(どんど焼き、地蔵祭り、地域ぐるみの小学校運動会)への参加、季節の花見(桜、菖蒲、紫陽花、コスモス、紅葉)、花火大会、クリスマスイルミネーションの見学、法人施設のカフェの利用、ドライブ(下松市内、周南市内、八代の鶴見学、買物、外食、喫茶、馴染みの場所)に出かけている他、家族の協力を得て、外出、外食、外泊、墓参、法事への参加等、利用者一人ひとりの希望に応じて、戸外に出かけられるように支援している。	
51		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	「買い物に行きたい」との本人希望にて自分の欲しいものを選び購入して頂けるようお店に行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
52		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	お友達にお手紙が出したいとの気持ちを聞き本人が自分で手紙を書き郵便局に行き手紙を出せる支援をしている。		
53	(23)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節の草花を活けたり、季節の果実や山菜を触ったり間近でみて頂いている。季節の作品を一緒に作成、掲示。	山々に囲まれた自然豊かな環境で、リビングは広々として自然光が差し込み明るい。室内には季節の花を飾り、壁面にも季節感のある作品が展示してある。窓際には大きなソファを配置し、利用者が外の風景を眺めながら談笑し、廊下にも長椅子が置いてあるなど、利用者が思い思いの場所でくつろげるように工夫している。温度や湿度、換気に配慮して利用者が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	
54		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	図書館で借りた本や遊具等を置いているテーブル、椅子を設置し空間づくりしている。3か所にソファ、エアロバイクを設置し自由に使ってもらっている。		
55	(24)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅で使用されていた思い出の品々をそのまま居室に設置して生活空間を作っている。	テレビ、箆笥、椅子、3段棚、衣装ケース、時計、温湿度計、川柳の本、鏡台、植木鉢等、使い慣れたものや好みのものを持ち込み、切り絵やぬり絵、習字などの自作品や家族写真を飾って本人が居心地よく過ごせるように工夫している。	
56		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	手すりや福祉用具等を利用しホール内をみんなで歩く等しできる限りの自立支援を心掛けている。安全面にも気を遣い、家族とも相談し理解を得ている。		

## 2. 目標達成計画

事業所名 グループホーム のんびり村米川

作成日：平成 30 年 3 月 22 日

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	5	運営推進会議の議事録の記録内容が十分ではない	運営推進委員さんの意見等を載せる簡潔なものを作る。	運営推進会議のあり方を工夫して委員さんの意見や感想がどんどん出るような会議にする。 (委員さんに次の会議の議題を提案していただく)	6ヶ月
2	35	事故やヒヤリハットが起きた時の初期対応や応急手当に実践力を全職員が身に付けるまでに至っていない	全職員が事故やヒヤリハットが起きた時に対応できる実践力を身につける。	年4回の法人内の安全委員会で事例を検討、その後も意見を出し合い見直しをし事故防止に努める。全職員が引き続き定期的な法人内・外の研修に参加・訓練を行い、日頃から実践力が身につくよう管理者・ケアマネ・看護師・主任で指導していく。	1年
3	36	災害時の対策として地域との協力体制の構築	災害時の地域との協力体制を築く。	運営推進会議を利用して災害時の地域との協力体制を築き、年2回の消防避難訓練や年1回の土砂災害避難訓練の際、地域住民の方との合同訓練を計画する。	1年
4					
5					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。